

# 目次

<b>I 章 はじめに</b>	
<b>1 本ガイドライン作成の目的と経緯</b>	2
1. 本ガイドラインの目的	2
2. 2020年版作成までの経緯	2
3. 2020年版作成の経緯	2
4. ガイドライン普及と活用促進のための工夫	3
<b>2 ガイドラインの使用上の注意</b>	4
1. ガイドラインの使用上の注意	4
2. ガイドラインの構成とインストラクション	5
3. 日本緩和医療学会の他の教育プログラムとの関係	5
<b>3 推奨の強さとエビデンスレベル</b>	6
1. エビデンスレベル	6
2. 推奨の強さ	7
3. 推奨の強さとエビデンスレベルの臨床的意味	8
<b>4 作成過程</b>	10
1. 概要	10
2. 臨床疑問の設定	10
3. システマティックレビュー	10
4. エビデンスの評価	11
5. 妥当性の検証	12
① 1回目のデルファイラウンド	13
② 2回目のデルファイラウンド	13
③ 最終稿	13
④ 外部評価委員による評価	13
6. 日本緩和医療学会の承認	13
7. ガイドライン作成者と利益相反	14
<b>5 文献検索式</b>	18
<b>II 章 背景知識</b>	
<b>1 がん疼痛の分類・機序・症候群</b>	22
1. 痛みの性質による分類	22
① 体性痛	22
② 内臓痛	25
③ 神経障害性疼痛	25
2. 痛みのパターンによる分類	26
① 持続痛	26
② 突出痛	26
3. 痛みの臨床的症候群	30
① がんによる痛みの症候群	30
② がん治療による痛みの症候群	31
<b>2 痛みの包括的評価</b>	34
1. 痛みの包括的評価の実際	34
① 観察	34
② 問診	34
③ 身体診察	36
④ 検査	38
2. 痛みの原因を診断し、治療計画を立てる	38
<b>3 がん疼痛治療の概要</b>	39
<b>① WHO 方式がん疼痛治療法</b>	39
1. WHO がん疼痛ガイドラインとは	39
2. がん疼痛マネジメントの基本原則	40
3. 推奨	40
<b>② 海外のがん疼痛ガイドラインの概要</b>	43
1. がん疼痛に対するオピオイドの使用：エビデンスに基づいた EAPC の推奨 (Lancet Oncol, 2012)	43
2. がん疼痛のマネジメント：ESMO の臨床ガイドライン (Ann Oncol, 2018)	44
3. がんの突出痛のマネジメント：APM による推奨 (Eur J Pain, 2008)	47
4. 成人のがん疼痛：NCCN の臨床ガイドライン (Web, 2019)	49
<b>4 薬理的知識</b>	53
<b>① オピオイド</b>	53
1. オピオイドとは何か	53
① オピオイドとは	53

2. 本邦で利用可能なオピオイドとその特徴	53	<b>4 非ステロイド性抗炎症薬使用時に注意すべき相互作用</b>	74
1 製剤の特徴	53	<b>5 精神依存・身体依存・耐性</b>	76
3. 投与経路の変更	53	1. 精神依存	76
1 経口投与	53	1 定義	76
2 直腸内投与	57	2 薬理学的基盤	76
3 経皮投与	57	3 臨床	78
4 持続皮下注	57	2. 身体依存	78
5 持続静注	57	1 定義	78
6 筋肉内投与	57	2 薬理学的基盤	79
7 経口腔粘膜投与	57	3 臨床	80
4. オピオイドスイッチング	58	3. 耐性	80
1 オピオイドスイッチング	58	1 定義	80
2 オピオイドスイッチングの実際	58	2 薬理学的基盤	80
5. 換算表	59	3 臨床	80
6. 各オピオイドの薬理学的特徴	60	<b>5 非オピオイド鎮痛薬</b>	82
1 麻薬性鎮痛薬	60	1. 非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs)	82
2 麻薬拮抗性鎮痛薬	64	1 薬理学的特徴	82
7. 特殊な病態でのオピオイドの選択	64	2 副作用	82
1 腎機能障害	64	2. アセトアミノフェン	85
2 透析	65	1 薬理学的特徴	85
3 肝機能障害	66	2 用法・用量	85
<b>2 オピオイドによる副作用と対策</b>	67	3 副作用	85
1. 悪心・嘔吐	67	<b>6 鎮痛補助薬</b>	87
2. 便秘	67	1. 鎮痛補助薬の定義	87
3. 眠気	68	2. 鎮痛補助薬の概要	87
4. せん妄・幻覚	68	3. 各鎮痛補助薬の特徴	87
5. 呼吸抑制	68	1 抗うつ薬	87
6. 口内乾燥	69	2 ガバペンチノイド (Ca <sup>2+</sup> チャネル α <sub>2</sub> δ リガンド)	89
7. 癢痒感	69	3 抗痙攣薬	89
8. 排尿障害	70	4 局所麻酔薬・抗不整脈薬	90
9. ミオクローヌス	70	5 NMDA 受容体拮抗薬	90
10. セロトニン症候群	70	6 中枢性筋弛緩薬	91
11. 心血管系の副作用	70	7 コルチコステロイド	91
<b>3 オピオイドに与える影響・薬物相互作用</b>	71	8 ビスホスホネート, デノスマブなどの bone-modifying agents (BMA)	91
1. 薬物相互作用とは	71	9 その他	92
2. オピオイド使用時に注意すべき相互作用	71	<b>7 患者のオピオイドについての認識</b>	93
3. 特にモルヒネ・ヒドロモルフォン・オキシコドン・フェンタニル・タペンタドール・メサドン・トラマドール使用時に注意すべき相互作用	71	1. 患者はオピオイドをどうとらえているか	93

2. 医学的真実と一致しない誤解に対してどのように対応していくか	94
① 「オピオイドを使用すると麻薬中毒になる」という誤解についての真実	94
② 「オピオイドを使用すると寿命が縮まる」という誤解についての真実	94
③ オピオイドに関する誤った認識への対応	95

## Ⅲ章 推奨

### ● 推奨の概要 98

#### 1 薬剤に関する臨床疑問 100

<b>CQ 1</b> がん疼痛のある患者に対して、アセトアミノフェンの投与は推奨されるか？	100
<b>CQ 2</b> がん疼痛のある患者に対して、NSAIDsの投与は推奨されるか？	102
<b>CQ 3</b> がん疼痛のある患者に対して、モルヒネの投与は推奨されるか？	107
<b>CQ 4</b> がん疼痛のある患者に対して、ヒドロモルフォンの投与は推奨されるか？	113
<b>CQ 5</b> がん疼痛のある患者に対して、オキシコドンの投与は推奨されるか？	115
<b>CQ 6</b> がん疼痛のある患者に対して、フェンタニルの投与は推奨されるか？	118
<b>CQ 7</b> がん疼痛のある患者に対して、タベンタドールの投与は推奨されるか？	121
<b>CQ 8</b> がん疼痛のある患者に対して、コデインの投与は推奨されるか？	123
<b>CQ 9</b> がん疼痛のある患者に対して、トラマドールの投与は推奨されるか？	125
<b>CQ 10</b> 中等度から高度のがん疼痛のあるがん患者に対して、メサドンの投与は推奨されるか？	127
<b>CQ 11</b> がん疼痛のある患者に対して、ブプレノルフィンの投与は推奨されるか？	129
<b>CQ 12</b> がん疼痛のある患者に対して、オピオイドに加えて、抗うつ薬の投与は推奨されるか？	132
<b>CQ 13</b> がん疼痛のある患者に対して、オピオイドに加えて、抗痙攣薬、ガバペンチノイドの投与は推奨されるか？	134
<b>CQ 14</b> がん疼痛のある患者に対して、オピオイド	

に加えて、抗不整脈薬の投与は推奨されるか？ 136

**CQ 15** がん疼痛のある患者に対して、オピオイドに加えて、ケタミンの投与は推奨されるか？ 138

**CQ 16** がん疼痛のある患者に対して、ステロイドの投与は推奨されるか？ 140

#### 2 有害作用に関する臨床疑問 143

**CQ 17** オピオイドが原因で、便秘のあるがん患者に対して、下剤、その他の便秘治療薬の投与は推奨されるか？ 143

**CQ 18** オピオイドが原因で、悪心・嘔吐のあるがん患者に対して、制吐薬の投与は推奨されるか？ 146

**CQ 19** オピオイドが原因で、悪心・嘔吐のあるがん患者に対して、他のオピオイドへの変更、投与経路の変更は推奨されるか？ 146

**CQ 20** オピオイドが原因で、眠気のあるがん患者に対して、精神刺激薬の投与は推奨されるか？ 149

#### 3 治療法に関する臨床疑問 151

**CQ 21** がん疼痛のある患者に対して、病態（原発臓器、痛みの部位・種類）により特定のおピオイドを投与することは推奨されるか？ 151

**CQ 22** がん疼痛のある、高度の腎機能障害患者に対して、特定のおピオイドの投与は推奨されるか？ 153

**CQ 23** がん疼痛のある患者に対して、初回投与のおピオイドは、強おピオイドと弱おピオイドのどちらが推奨されるか？ 156

**CQ 24** がん疼痛のある患者に対して、より早く鎮痛するために、おピオイドを持続静注または持続皮下注で投与することは推奨されるか？ 158

**CQ 25** がん疼痛の突出痛のある患者に対して、どの強おピオイドの投与が推奨されるか？ 160

**CQ 26** オピオイドが投与されているにもかかわらず、適切な鎮痛効果が得られない、がん疼痛のある患者に対して、おピオイドの変更は推奨されるか？ 163

**CQ 27** オピオイドによる許容できない有害作用のある、がん疼痛のある患者に対して、おピオイドの変更は推奨されるか？ 163

CC 28	がん疼痛の突出痛のある患者に対して、医師や看護師がオピオイド注射剤をボース投与することや、患者自身がボース投与（PCA：自己調節鎮痛法）することは推奨されるか？	166	2	現場の臨床疑問，現在までの研究と今後の検討課題	173
4	Appendix	168		索引	180
1	ガイドライン委員会で討論したが、根拠が乏しく解説文に記載しなかったこと	168			